

R 7 自然保護セミナー実施！

於：KNB入船別館

富山県山岳連盟自然保護委員会では、令和7年7月6日（日）に自然保護セミナーを実施しました。平成18年から始まった自然保護セミナーは、通算19回目の開催となりました。

今回のテーマは「登山道の現状と維持について学ぶ」。近年、富山県内でも登山道の荒廃や崩落が話題になっていることを受け、登山道の維持管理の実情を知り、われわれ登山者にできることはないか今一度見つめ直してみようという目的で設定しました。講師は、富山県自然保護協会副理事長の大宮徹先生にお願いしました。大宮先生は薬師方面や奥黒部方面の登山道の現状調査や、植生復元活動に専門的に取り組んでいらっしゃいます。「登山道とは何か？」の演題で、①登山道と自然保護、②登山道の現在、③ボランティアによる道直し・植生復元、と系統立てて、先生ご自身の現地踏査の成果を中心に、豊富な画像を駆使してたいへんわかりやすくお話し下さいました。県内各地から、高校生6名を含めて総勢26名が興味深く講演を拝聴しました。



①1960年頃 高原バス弥陀ヶ原終点のたくさんの登山客



②浸食の進んだ登山道（折立太郎山線の樹林区間）

観光開発で多くの人が登山を楽しむようになりました（写真①）が、それは登山道の荒廃にもつながりました。特に折立から薬師方面に向けての道は雨水による浸食が激しく、人の背丈以上に掘れているところもあります（写真②）。以前は公共工事による登山道工事が行われていましたが（写真③、④）、景観にそぐわない、さらなる荒廃につながるという指摘もありました。そこで近自然工法による修復法が注目され始めています（写真⑤、⑥）。地形や水の流れ等自然を見極め、倒木を適切な長さに切ってジグザクに並べて置いていき、倒木の下には小石や枯れ枝、落ち葉などを敷き詰めます。あえて雨水がそこを流れるようにすることで、土砂が隙間を埋めてくれます。ボランティアを募ってこうした活動をしていけないかと大宮先生は提案していらっしゃいました。大宮先生には有意義なご講演を聴かせていただき、感謝でいっぱいです。

（富山県山岳連盟 自然保護委員会 金川千尋）



③階段状の登山道



④枠で道を作り石を敷く



⑤近自然工法 倒木を利用



⑥ジグザグに置き小石や落ち葉を詰める